

ナシの病害虫の発生状況（6月中旬） 調査地点：中通り 20 園地、浜通り 10 園地

(1) ナシ黒星病

6月中旬における新梢葉での発生ほ場割合は平年より高く、果実での発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況でした（図1、2）。「幸水」は、満開後90日頃までが本病への果実の感受性が高まる時期です。園内をよく見回り、発病部位の早期発見・早期除去を徹底し、本病に効果の高い薬剤を散布しましょう。薬剤散布は、降雨前の実施を基本とし、散布間隔があきすぎないように実施しましょう。令和6年6月20日付け令和6年度病害虫防除情報（ナシ黒星病）参照。
 (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/639081.pdf>)

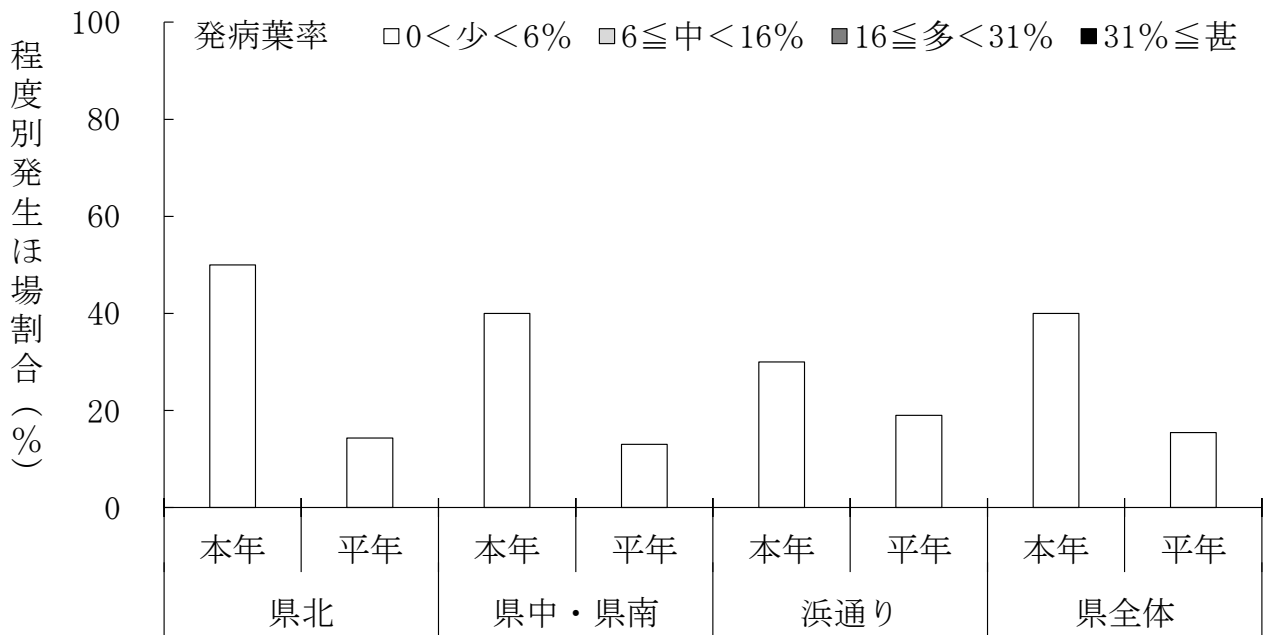


図1 ナシ黒星病の発生状況（新梢葉）

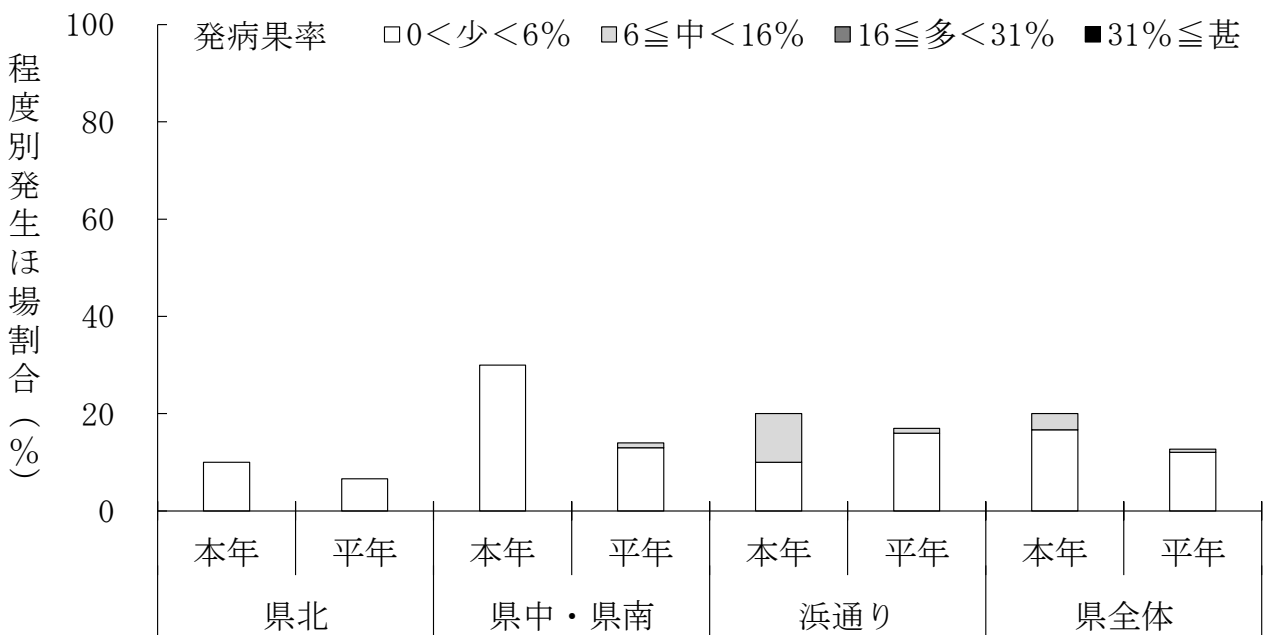


図2 ナシ黒星病の発生状況（果実）

(2) アブラムシ類

新梢葉寄生の発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図3）。

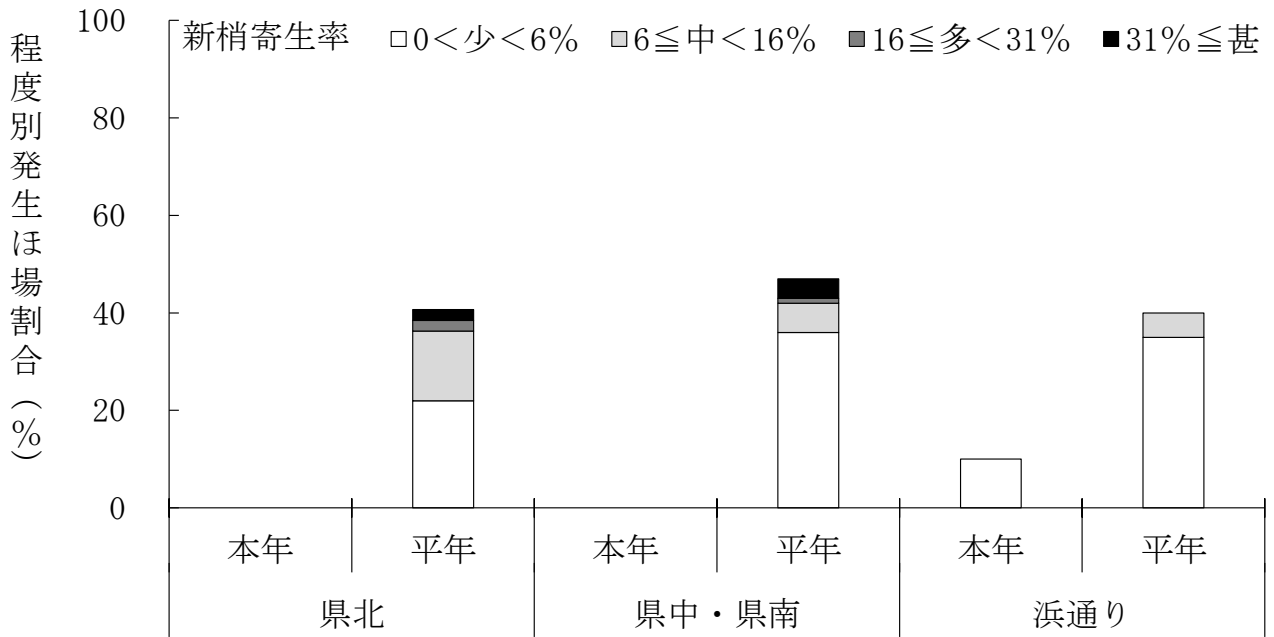


図3 アブラムシ類の新梢葉寄生状況

(3) ハダニ類

新梢葉の寄生は、いずれの地区も確認されませんでした。要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

(4) 果樹カメムシ類

果実被害は、浜通りで確認されました（図4）。

園地での飛来状況をよく観察し、飛来を確認したら薬剤散布を実施しましょう。

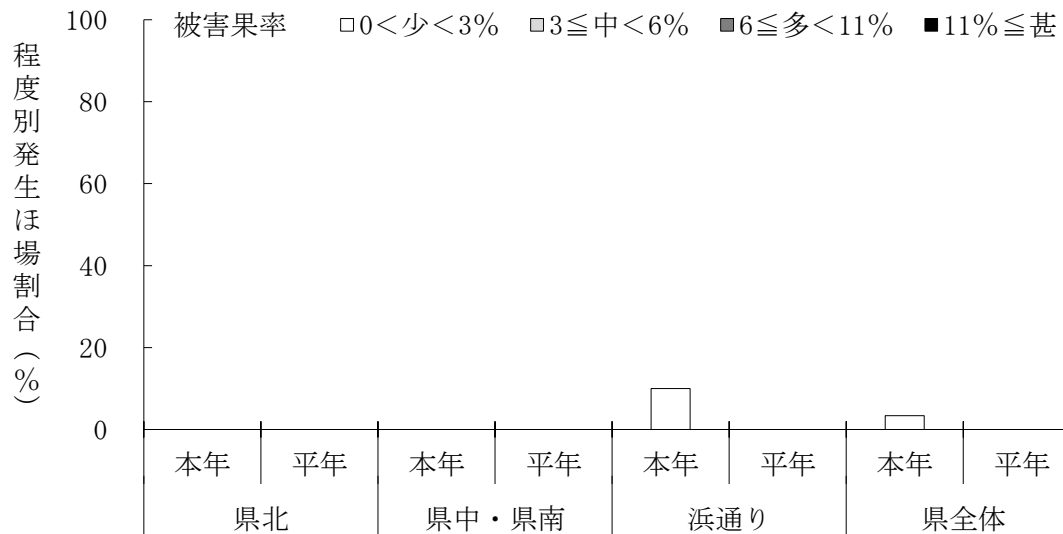


図4 カメムシ類による新梢葉の寄生状況